

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレシス南林間Ⅳ 新築工事	階数	地上13F
建設地	神奈川県大和市南林間1丁目3633番1	構造	RC造
用途地域	商業地域、第一種住居地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2023年11月9日
敷地面積	776 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社プラスデュー 級建築士事務所
建築面積	369 m <sup>2</sup>	確認日	2023年11月10日
延床面積	3,927 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社プラスデュー 級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

音環境	3.2
温熱環境	3.7
光・視環境	3.3
空気質環境	3.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

機能性	3.0
耐用性	3.0
対応性	3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

水資源	3.4
非再生材料の	3.1
汚染物質	2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

地球温暖化	3.9
地域環境	3.0
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
南林間駅から南方向へ徒歩5分程度の敷地に鉄筋コンクリート造、地上13階建ての共同住宅を計画した。		特になし
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。カーテン+庇の2種類以上を組み合わせることで昼光制御。建築基準法を満たしつつF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。階高2.9m以上	特になし
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
断熱等性能等級4相当	節水型水栓金具の使用、節水型便器の使用 躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている(LGS下地+石膏ボード仕上)	適切な量の駐車スペースの確保 光害対策ガイドラインのチェックリストの項目の過半を満たしている

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される